



【発行・編集】 社会福祉法人 小渦会 鳴門シーガル病院 理事長 鎌田啓三
徳島県鳴門市瀬戸町堂浦字阿波井57番地 TEL. 088-688-0011(代)



かもめ便り



【ホームページ】 <http://k-seagull.jp/>

シーガル病院

検索

未年の年頭に当たって



2014年から2015年へ、午から未へとバトンが渡されました。午(馬)と未(羊)ともに人間と非常に馴染み深い家畜ですね。羊が家畜化されたのは、今から8千年以上も昔といわれています。馬が家畜化されたのが5千年前で、すから、羊と人間のつきあいはずいぶん長いことになります。

西暦599年、推古天皇の時代に、百済から2頭の羊が贈られたと、日本書紀に記されています。しかし、羊は、乾燥した風土を好むので、湿気の多い日本の気候にはあわなかつたので、しよう、余り繁殖しなかつたようです。

近代になって、消費者が増加した羊毛の国内自給を図るために、羊の飼育が

奨励され、一時は国内で100万頭が飼育されていたとの記録がありますが、現在では、北海道などを中心に1万頭余りとなっています。

このように、日本の風土にはしっくりとなじめない羊ですが、日本人にとっては、その存在数以上に身近な動物といっても言い過ぎではないでしょう。羊からは、私達の日常生活に必要な様々な製品が作られていますし、羊には、おとなしい、優しいなど実にフレンドリーなイメージがあります。

また、『群れる』の漢字に羊の字が使われているように、羊は集団(群れて)で行動します。羊は1匹では、実に弱々しく見える動物ですが、このように群れることによつて、意外な力を発揮します。

「群羊を駆って猛虎を攻む」ということわざがあります。弱い羊を集めて強い虎を攻撃するということでも、勝ち目がなれないと思われれば、強いものにも対抗しようということのたとえです。

このことは、私達に重要な示唆を与えてくれます。一人ひとりが、みずからの最善を尽くし、仲間を理解する努力を怠らなければ、一人ひとりの力は小さくても、強力な組織を作ることができます。ということです。

2015年・まだまだ社会情勢厳しく、好転の兆しは未だしの感があります。しかしながら、厳しくとも、それを乗り切っていく手だては、「こんなところにあるのでは」と考えています。

今年も1年よろしくお願いたします。



社会福祉法人小渦会
理事長 鎌田啓三



新年のご挨拶

小渦会の各施設より

新年明けましておめでとうございます。

早いもので今年は私が院長に就任して10年目となります。「入院医療中心から、地域生活中心へ」という方針のもとに、当院もいろいろな取り組みをしてまいりました。

訪問看護ステーションやグループホームの設立とともに、退院前後における支援の充実を図ってきました。職員はそれぞれの専門性をいかんなく発揮して、一人の患者さんの社会復帰に向けて全力でサポートしてきました。

今後も社会福祉法人として、地域貢献できるように努めてまいりますのでよろしくお願い申し上げます。



鳴門シーガル 病院

院長 福永 明広



徳島シーガル クリニック

院長 齋藤 孝一

徳島駅近くの静かな環境に立地し、デイケアを併設しているクリニックです。医師、看護師(2名)、精神保健福祉士、作業療法士、臨床心理士が勤務しています。

これだけの多職種が協力しながら診療しているクリニックは県内でも数少ないのではないかと自負しています。当院でお役に立つこともあるかと思えます。いつでも御相談ください。



訪問看護ステーション スマイル

所長 阿部 哲也

訪問看護ステーション スマイルは、平成22年5月に開設して今年で5年目を迎えることができ、利用者・関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

スマイルでは、5名の看護師(女性3名・男性2名)が在籍し、精神疾患・認知症のご本人、御家族を対象とし健康管理・傾聴・相談・家事支援・作業療法などを行い、精神の安定・生活の活性化・自立を目標に支援させていただいております。

これからも利用者様が「その人らしく生活できるよう」良質なサービスの提供に取り組んでまいります。



救護施設 小鳴門荘

荘長 豊田 守

救護施設は、障害種別による利用制限はなく、支援を必要とする方を即受け入れることができる施設として、地域の「セーフティーネット」としての役割もっておりますが、一方、地域生活への自立を希望される方には、自立等のための支援にも力を入れております。

本年4月1日から「生活困窮者自立支援法」が施行されますが、施設利用者のみならず、地域に暮らす生活困窮者への支援にも取り組んでいきたいと考えております。



グループホーム ファミリー

管理者 福田 悦子

グループホームファミリーにつきましては、鳴門市内に3ヶ所の定員15名となっております。ホーム名でもあります”家族”をモットーに、あたたかい支援・サービスを心掛けております。いつでもお立ち寄りください。



地域紹介

堂浦テグスといやしの社、阿波井神社

鳴門シーガル病院がある堂浦はテグス漁発祥の地とされ、いやしの社として民俗学的にも重視されている阿波井神社もあるこの地域は「未来に残したい漁業漁村歴史文化財産百選」の一つに選出されています。以下はその紹介文です。

長崎福三著「漁食の民」には、次のように紹介されている。

堂浦のテグスを使った釣り漁法は江戸時代を通じ瀬戸内海のあちらこちらに導入され、それぞれ地方的な釣り漁法を育てている。一本釣りにテグスを使用しはじめたのは慶長年間というからかなり古い。テグスは中国の広東省地方の楓蚕の腺液を酷酸の中で引き延ばして、固めたもので、薬品の包装に用いられていたものである。堂浦の漁師たちは、大阪からこのテグスを仕入れ、これを釣り用具として各地に売り歩きながら漁業を行なったという。そして江戸時代中期には、この堂浦の釣り漁法は瀬戸内海に広く普及した。瀬戸内海の本一本釣りは釣った魚をいけすに生かしておいて、活魚として売ったために値が高かったという。

また、司馬遼太郎著「街道をゆく」でも、堂浦の漁師がテグスの利用を広く流通させた話が紹介されている。

水産庁発行「未来に残したい漁業漁村歴史文化財産百選 百選集」より



阿波井神社



阿波井神社の秋祭り

事務部 武田 利彦

給食だより

おせち給食！



新年おめでとうございます！

皆様が健康に過ごせますよう、美味しい給食を提供します。今年もよろしく願いいたします。

お正月といえば、おせち料理。「おせち」とは「お節供(おせちく)」の略で、季節の変わり目の節句行事で作られるごちそうや、神に供えるすべてが

「おせち料理」でしたが、節句の中で最も重要な正月料理をさすようになりました。

縁起食材のいろいろ

- 【黒豆】 黒々と健康でまめに働けるように
- 【ごまめ】 「田作り」ともいわれ豊作祈願
- 【数の子】 子孫繁栄の願い
- 【昆布】 「よろこぶ」にかけて
- 【海老】 腰が曲がるまで長寿を願って
- 【だいたい】 黄色が太陽や生命力の象徴とされる



<元旦の昼食>

お正月に柳ばしを使うのは、正月早々はしが折れては縁起が悪いので丈夫な柳のはしでという意味と、中央がふくらんでいるのを身ごもった姿や稲穂の実りに見立て、子孫繁栄を願う意味があります。

栄養士 天満富美代



医療工ッセイ

漫画のような話

僕が小学生の時代、男子に人気のあった趣味はプラモデル作りであった。まだ「機動戦士ガンダム」は放映されておらず、人気のあった商品は戦車や戦闘機、軍艦などで、特に第2次世界大戦中に使われたドイツ軍のパンサー戦車とタイガー戦車が大人気で、それをより本物らしく作り込むことに友達と熱中したものである。戦車というのは陸の上を移動する乗り物なので、プラモデルとして飾るには飛行機や船より、より自然な感じがして子供には人気があったのではないかと思っている。

大学受験に失敗して予備校に入ると、気分的にプラモデルを作る気にもならず、予備校の寮仲間から漫画を借りて読む機会が増えた。そういう中で気に入った漫画が新谷かおる先生の「エアリア88」であった。ストーリーは中東某国を舞台に内乱が勃発し、それぞれの陣営が腕利きの傭兵を雇うわけだが、各自がお気に入りのジェット戦闘機に乗って戦うという荒唐無稽の壮大なスケール

の物語であった。主人公はいわゆる西側の戦闘機を愛機として戦い、敵側はだいたいソビエトのミグ戦闘機を使用するパターン。最終的には負けてしまうミグの方になんとなく惹かれることが多かった。浪人生という立場で厳しい現実に直面しながら、それから逃れる時間を提供してくれ、この漫画にはとても感謝している。

それから10年が過ぎて劇的な世界情勢を迎えた。ソビエト社会主義共和国連邦の崩壊である。混乱状態に陥ったロシアでは軍への予算も削られ、軍が独自に外貨を獲得せねばならないことになる。そこで軍が始めたのは自国の戦闘機に西側の人間を乗せて金を徴収する商売。ミグ、スホイと各戦闘機のリストが僕の目の前に広げられる。10年前のくすぶっていた自分を慰めてくれた漫画に出てきたミグ23を迷わず選び、モスクワへと旅立つ。実際に乗ってみると、あっけないほど簡単に荒唐無稽だった漫画の世界が現実へと変わった。ロシアからは続けているいろいろなオファーが流

れてくる。同じく漫画によく出てきたカラシニコフAK47自動小銃を好きなだけ撃てますとか、T72型戦車を操縦して主砲を発射できますとか、10年前にはとても信じられなかった内容のオンパレードであった。

当時は気ままな生き方をしていたこともあり、こんなことが可能であるならもっと踏み込んでみようかと思った僕の足場は突然崩れてしまった。オウムがロシアから軍用ヘリを購入して組み立てて、信者がロシアで軍事訓練に参加していたことが判明。そういうものは一気にうさんくさいものと見なされ、それらのリストもいつのまにか消えてしまった。

この世はただ待つだけで思いもかけぬ扉が開かれることもある。しかし開かれている時間は案外短い。チャンスがあれば迷わず決断して実行。そういう転機が訪れるのも人生の機微かもしれない。(この漫画、病院の図書室にもあったので読ませていただきました(笑)。) 医師 澤田和之

【編集後記】

かもめ便りの新年号が完成しました。理事長ならびに小渦会各施設長からのご挨拶を中心に編集しています。2015年もどうぞよろしくお願いたします。

次号(『かもめ便り』第9号)は、2015年5月に発行の予定です。

恒佳 恒出 武田
社会福祉法人 小渦会URL



鳴門シーガル病院 交通案内

- JR鳴門駅から「北泊・堂浦行」徳島バスで堂浦(どうのうら)下車(所要時間20分)

- 直営渡船利用 (所要時間2分)

◎ 渡船(無料) 運航時間

午前7時30分から午後5時15分まで

定時運航(10分～30分間隔)しています。

TEL088-688-0011(代)

